

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.23

鳴門市における水に関する話題

徳島県 鳴門市長
かめい としあき
亀井 俊明



1.はじめに

鳴門市は四国の東部、徳島県の東北端に位置しており鳴門海峡をへだてて淡路島に対峙し、本州と結ぶ四国の東玄関をなしています。特に北部は瀬戸内海国立公園に指定され、北に播磨灘、東に紀伊水道をのぞみ、鳴門海峡の急流と逆巻く渦潮でその名を知られた景勝地であります。恵まれた自然や歴史、文化などの観光資源を有機的に結んだ広域環境誘致事業を展開するとともに、全国的にも高い評価を受ける「鯛」「ワカメ」「さつまいも」「塩」など数多い地域特産物の供給基地としての体制づくりを進めています。

2.川に関する話題

周りを海に囲まれた本市は、太古の昔から海や川が人々の生活に欠かせないものでした。慶長初年に塩田が開かれるとともに、今も市の中心部を流れる撫養川は塩の積み出し港として交通の要衝の地となりました。

撫養（むや）の地名の由来は塩を運搬する「てんま船」の網をむやう（結ぶ）がなまってつけられ

たとも言われています。

昭和30年代には、貸ボートなども浮かび、人々の憩いの場として親しまれていました。平成3年から着手されました撫養川ふるさとプロムナード水辺空間整備事業は、県市総事業費約60億円で整備され、平成12年7月には、グリムメルヘンプロムナードなどの創意工夫が認められ「手づくり郷土賞」を授賞することとなりました。現在も親水公園として、老若男女を問わず癒しの空間となっています。

また、撫養川のほとりで、毎年開催されております鳴門の花火大会には県下一円はもとより、近隣他県からも大勢の人々が訪れ、空では大きく花開く花火と、川の波間に写しだされる花火が幻想的な色合いをかもしています。

さらに冬には、イルミネーションも点灯し、道行く人々を楽しませています。

その他市内を流れる川は36本あり、これらの川は農産物への水供給などに欠かすことの出来ないものです。

今後も環境を守り、利水、治水に努め市民生活の安全を実現してまいりたいと考えています。



納涼花火大会



冬のイルミネーション